

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	鹿行広域DMOプロジェクト(5市連携)				
<p>事業の概要 (平成29年度～令和3年度)</p>	<p>FIFAクラブワールドカップ2016で準優勝した鹿島アントラーズと連携した「スポーツ合宿」を柱としたスポーツツーリズムブランドや、農業が盛んな当地域の強みを活かしたグリーンツーリズムブランドを創出するため、鹿行地区版DMOを設立し、国内だけでなくインバウンド向けスポーツ合宿商品、鹿島神宮や水郷特有の観光資源を活用したインバウンド向けフォトウェディング商品及び豊富な農産物を活用した農業体験商品等を造成する。特に、合宿商品では今後増加が見込まれるムスリムに対応するものを含め、スポーツ施設や合宿所の増加を図り、ムスリム圏において「海外合宿は日本・鹿行へ」と言われるようプロモーションを推進していく。そのためには、国内外の地勢、政治、経済、旅行先傾向、嗜好等に精通する旅行業務取扱管理者及びマーケティング担当者が、造成した商品を国内のみならず、ムスリム圏をはじめとする海外市場に展開する。その結果、外貨(地域外からのお金)を稼ぐ仕組みが作られるとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化が図られる。</p> <p>また、全国に先駆けた観光地域づくりの取組としては、前述のムスリム対応合宿所の増加のほか、国内で利用者が1千万人を超えるスマホアプリ事業者と連携し、DMO実施事業に対する予約体制を構築するとともに、域内市民の統一コミュニケーションツールの作成準備をしている。</p> <p>また、地域商社の要素として、地域資源を活用した土産物や特産品を開発し、マーケティングの手法を駆使して新規開拓を行い、商品の販売を促進していく。</p>				
<p>令和2年度 実施事業内容</p>	<p>●5市共通【DMO運営補助:21,000千円】以下の事業を実施し、販売経費合計54,140,854円に対して運営補助を行う。</p> <p>○スポーツツーリズム :販売経費48,460,283円 《スポーツ大会・合宿誘致》サッカーを中心とした団体スポーツプレイヤーをターゲットに、大会の企画開催、スポーツ合宿プランを販売 ・サッカー大会の企画開催 ・スポーツ合宿プランの販売 《アントラーズ観光》 鹿島アントラーズと連携して高付加価値観戦ツアーとして販売 ・鹿島アントラーズヘリコプター観戦プランの販売 《個人向けスポーツ体験商品》 茨城100kウルトラマラソンin鹿行を開催 ・参加者に対する宿泊ツアーを販売 《地域商社事業(土産品開発・販売)》 ・純米原酒「我は勝つ」開発・販売 ・アントラーズホームタウン「うまい棒ソース勝つ味」開発・販売 ・銚田市商工会との連携事業「銚田のうまいもんボックス」開発・販売 内容は、仲田精肉店の「国産豚ハラミ」、カシマスタジアム売店ゆがふの「トマトもつ煮」、居酒屋うまごやの「まごころ豚のシュウマイ」、今泉食品のキムチ「本造り 旨味熟成」、コモリ食品の「恋するチーズ」の5品と、鹿島FCのハンドタオルのセット</p> <p>○グリーンツーリズム :販売経費484,991円 《農業体験+宿泊のパッケージツアー》 農業体験とキャンプを組み合わせたパッケージツアーの販売 ・芋掘り体験+BBQ+キャンプ+カシマスタジアムでの試合観戦ツアーの販売</p> <p>○エコツーリズム :販売経費5,195,580円 《民泊施設を活用した企業研修》民泊施設Stay Rokkoの運営と、同施設を活用した企業研修プラン ・カシマスタジアムやStay Rokkoを会場に、宿泊付き企業研修プランを販売</p>				
<p>令和2年度事業費 ※()は銚田市分</p>	21,000千円 (4,200千円)				
<p>うち交付金 ※()は銚田市分</p>	10,500千円 (2,100千円)				
<p>本事業における 重要業績評価指標 (KPI)</p>	指 標	① 観光入込客数	② スポーツ合宿 参加者数	③ スポーツ合宿を目的 とした訪日外国人数	④ スポーツイベント・ 農業体験後の 民泊の売上げ
	目標指標値	3,199,727人	32,000人	3,050人	23,495,000円
	目標年月	令和4年3月末			
<p>本事業における実績値</p>	基準値(H28)	2,599,727人	—	—	—
	実績値(R2)	894,815人	680人	0人	17,403,529円
	達成度	28.0%	2.1%	0.0%	74.1%

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		鹿行広域DMOプロジェクト(5市連携)
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった 2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである(事業拡大) 2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続) 3 事業内容の見直し(改善)を行うべきである 4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県+17市町連携)			
事業の概要 (令和元年度～令和3年度)	<p>【茨城県】 (1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わりの機会の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。 (2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。 上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築)</p> <p>【連携市町】 県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」を呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。</p>			
令和2年度実施事業内容	<p><関係人口の創出・深化> <新たな「しごと」を創出する仕組みの構築> ・多様な関わりの機会を提供【委託料等】 ¥12,705,000 資源の価値を見直すなど、本市との多様な関わりの機会を提供することにより、関係人口の創出・深化を図るとともに、地域資源を有機的に結びつけられるような検討を進めていく。また、地域課題解決のためのアイデアソン開催などにより、「関係人口」が本市の地域資源の価値を掘り起こす機会を提供し、関係性の深化を図り、地場産業の新たな担い手となることを後押ししていく。</p>			
令和2年度事業費 ※〇は銚田市分	241,142,712円(12,705,000円)			
うち交付金 ※〇は銚田市分	120,571,356円(6,352,500円)			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	指 標	① 移住者数・ 二地域居住者数	② この事業により創出 される「関係人口」数	③ 東京圏のフリーランス等による 新たな「しごと」の創出件数
	目標指標値	442人	17,970人	45件
	目標年月	令和4年3月末		
本事業における実績値	基準値(H30)	202人	10,770人	0件
	実績値(R2)	県集計中		
	達成度	—	—	—

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県+17市町連携)
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった 2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである(事業拡大) 2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続) 3 事業内容の見直し(改善)を行うべきである 4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	「農業と観光のハーモニー」DAPPE project
<p>事業の概要 (令和2年度～ 令和4年度)</p>	<p>従来の行政の枠組みを超えた本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多様な観光推進事業を推進するため、その中心的な役割を担う一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会を設立し、市直売所のリニューアルに併せ、観光客が市内を観光する足掛かりとなる情報発信機能を持たせ、農業体験事業やイベント等、誘客につながる取り組みを進めていく。</p> <p>農業・農産物をツールとした観光コンテンツの創出、それらを活用した市内回遊・滞留の仕組みづくり、地域ブランドを活かした商品開発やその販路拡大を進めていく。</p> <p>また、戦略的な情報発信を展開することで、銚田市への観光入込客数の増加を目指す。実需者である観光客と農業生産者との交流の中で、ただ生産するのではなくマーケット・イン思考な農業をつくり、地域の「稼ぐ力」の向上とさらなる雇用の創出を目指していく。</p> <p>さらに、流行に敏感な都会の若者をターゲットとした交流事業を実施することで、地元住民には気づかない農産物の付加価値の付け方を模索するとともに、「稼げる農業」に興味のある都会の若者の移住等に繋げていく。</p> <p>更に、市内の他の事業者・他業界(直売所や飲食店組合等)と連携し、点の取組でなく、面の取組として、交流人口の増加や地域活性化の相乗効果を高めていく。</p> <p>加えて、都市部女性と農業者の交流事業やプロモーションを通じて、都市部女性の取り組みや交流人口拡大を行う。</p>
<p>令和2年度 実施事業内容</p>	<p>■一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会の設立、運営に係る経費 令和2年度に一般社団法人として設立。市が管理、農産物生産者が運営をおこなっている農産物直売所さんて旬菜館の整備に併せ、経営サポートを行いつつ、指定管理者の選定に向けた準備、農産物販路拡大等に取り組むと伴に、観光メニュー等将来的な自立に向けた基盤整備を図る。 一般社団法人(仮称)銚田市観光物産協会 運営補助金 5,391,742円 内訳 人件費 1,911,591円 事務費 3,480,151円</p> <p>■観光物産協会設立初度調弁 1,995,092円 本市の特性を活かした「農業・農産物」をツールとした多種多様な観光事業を推進するため、中心的な役割を担う観光物産協会設立に必要な備品等購入費 事務所内備品(机、イス、パソコン、ロッカー等) 事務所内整備(インターネット環境等)</p> <p>■銚田市地域資源ブランド力向上事業 25,190,000円 ○多種多様な媒体を活用したPR 12,100,000円 ・SNSを積極的に活用したコンテンツの提供や情報発信を行い、メディアへの露出、消費者の関心をひく。 ○農産物のブランド化戦略 10,000,000円 ・メロン、苺を使用したメニューフェアの開催による認知度及び付加価値向上策 ・期間限定ポップアップショップによるSNS拡散策 ○就農意欲の喚起、人材育成、担い手確保 590,000円 ・生産者講演会、生産者研修、就農支援の情報発信強化を実施し、人材育成・担い手の確保を図る。 ・担い手にスポットを充てた動画等を効果的に活用し、就農意欲を向上させる。 ○消費拡大・需要喚起事業 2,500,000円 ・量販店や商業施設での消費宣伝を行うことで、消費拡大を目指す。</p> <p>■シテイプロモーション事業 10,450,000円 気候や自然に恵まれた本市の魅力を発信するツールを作成し、都市住民に対しプロモーションしていく。また、本市の農産物を活用した農業体験をしながら、生産者と都市部の若者との交流の場づくりを図る。 ・当市の魅力を発信するツールの製作費(委託事業) 9,427,000円 ・都市部女性向け農業体験企画費(委託費事業) 1,023,000円</p> <p>■農産物直売所「さんて旬菜館」改修 14,996,400円 本市農産物を観光資源として用い地産地消を取組んでいく中、農産物の販売や本市を訪れる観光客に食材、食文化を紹介することで「観光×農業」の付加価値を高めるとともに、新たなブランド商品の開発、販売を見据え、さんて旬菜館直売部会が運営している農産物直売所「さんて旬菜館」にイートインコーナーを整備する。 ■備品購入費 193,270円 イートインコーナー備品(イス、テーブル等)</p>

令和2年度事業費	58,216,504円				
うち交付金	29,108,252円				
本事業における 重要業績評価指標 (K P I)	指 標	① 観光入込客数	② 滞在人口率	③ 農業産出額	④ この事業により創出 される「関係人口」数
	目標指標値	1,219,100人	0.986倍	76,910,000千円	60人
	目標年月	令和5年3月末			
本事業における実績値	基準値(R1)	1,069,100人	0.98倍	75,410,000千円	—
	実績値(R2)	829,900人 (見込み)	0.98倍 (見込み)	56,935,440千円 (見込み)	9人
	達成度	68.1%	99.4%	74.0%	15.0%

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		「農業と観光のハーモニー」DAPPE project
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった 2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである(事業拡大) 2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続) 3 事業内容の見直し(改善)を行うべきである 4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	